

羽はたけ! こどもたち

大堀 寛人

⑬

だりする姿が見られます。でも、やっぱり虫が大好きなこどもは草むらに入ってバッタやカマキリを探しています。それも認めながら、「運動遊び」です。

十月に入ると、「ぶれいすくーる・ちゅーりっぷ」は、「運動会ごっこ」に取り組みます。運動会本番に向けての「練習」ではなく、遊びの一つとして楽しむのです。

あちらこちらの公園に出向き、リレーやトランポリンで汗を流します。カセットトデッキの周囲では自然とダンスが始まったり、障害物競走の道具を並べて遊ん

少し運動会らしくなったら、広島市西区の竜王公園で「ミニ運動会」。こどもがやろうと言えは何回でも運動会をします。本番のための練習ではなく、プロセスを楽しみながら「今日だけの」ミニ運動会で盛り上がりします。その中で、こどもたちは自然に、役割分担して準備を手伝うことや、競技を楽しむためにルールを守るこの大切さに気づ

いていきます。

本番は、町内運動会のようなふっつけ本番の運動会。普段から取り組んでいるトランポリンを使った「トランポピクス」や玉入れなどの定番がメイン種目です。全員がきっちりそろったダンスでなくても、少々歩調が合わない入場行進であっても構いません。こどもたちが、保育の中で取り組んだ運動遊びを楽しく発揮できればよいと考えています。

こどもは、何かできるようになると周囲の大人に「見て見て!」と要求します。運動会はアピールしなくても家族や大勢の人が見に来てくれます。晴れがましい気持ちや仲間と取り組

楽しいものであるはずですが。しかし、見学に訪れる保護者を満足させようと、本番のための訓練に力を入れ過ぎ、こどもたちが疲弊してしまつケースをよく耳にします。

行事とは、普段と違う晴れやかな日を設けて、羽目をはずしてとことん楽しんで、きれいな着物を着て、ごちそうを食べたりして、新たな活力を得ようとした日本人の生活の知恵なのです。こどもは本来、「普段と違う」ことが大好きです。

そういう場面では意欲的になるもの。「行事」の演出は、大人が一方的に考えるのではなく、こどもたちの気持ちをくみ取りながら、意欲をかきたてる工夫が必

要なのではないでしょうか。

運動会ごっこ

練習よりも楽しさ追求

む喜び、競う楽しさを思う存分に味わうことができれば、それで十分なのです。

運動会などの行事は本来

(ぶれいすくーる・ちゅーりっぷ) 広島市西区 園長)



こどもたちや先生、保護者が参加した運動会の玉入れ。とにかく真剣勝負です (園提供)